

出産・育児により離職した女性の
リスクに関する研究からの事業提案

【要旨】

ソーシャル・イノベーション研究科
ソーシャル・イノベーション専攻
2024年3月修了
中山 望

【要旨】

日本において人口・労働力減少が社会課題となっている。女性活躍が求められる中、政府が様々な政策・支援制度を打ち出した結果、2022年の第1子出産前後の就業率は69.5%に飛躍した。しかし、日本社会においては依然として性別役割分業の意識が強く、女性が就業と家庭の両立を行いながら能力を完全に発揮することが未だに困難である。本研究は、就労を中断した女性が企業や組織で働く以外に、デジタル分野のリスクリングを通じて新しい働き方の可能性を探ることを目的とし、国内での女性デジタル人材育成の優良事例を調査し、共通点と課題を分析した。その結果、リスクリングの提供側に必要な4つの要素を特定することができた。さらに、リスクリング経験者の女性を対象にアンケート調査を行い、そのうち経済的自立をしている4名にインタビュー調査を行った。その結果「自分起点の目的」、「弱いつながり」、「ピボット」、「フィードバック」の4つの重要な要素が明らかになった。本研究の結果を踏まえ、女性に向けた新たなリスクリング事業の提案を行う。それにより女性の活躍と、日本の労働力不足問題に対処するための一助となることを期待している。